

Artist in Fukuoka in the 21st Century vol.7

YANAGI Yukinori

ICARUS PROJECT

The Dream of Soaring; over the boundaries

イカロスプロジェクト
第7回21世紀の作家―福岡―飛翔の夢―国境を越えて
柳幸典展

開館時間

9時30分―17時30分〔入館は17時まで〕

休館日

毎週月曜日

〔ただし10月10日(月)祝は開館し、翌日(火)が休館〕

主催

福岡市美術館

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園4-6

Telephone: 092-714-6031

<http://www.fukuoka-art-museum.jp/>

協力

WING 890

▲観覧料本展は常設展示観覧料とらんになれます。

一般 1,200円〔1,500円〕

高大生 1,150円〔1,000円〕

小中生 無料

〔内は団体20名以上、料金。〕

福岡市発行のシルバー手帳、療育手帳または身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者は無料。

▲関連事業

▲アーティストトーク

▲アーティストトーク
2005年11月5日(土)15:00 / 1階教育講座ホール(入場無料)

▲クロストーク

八谷和彦(「WINGS」代表、メディアアーティスト)

藤浩志(「藤浩志企画制作室」代表、作家)

柳幸典

▲2005年11月19日(土)15:30 / 1階教育講座ホール(入場無料)

福岡市美術館

近現代美術企画展示室

Graphic Design: FUJITA Koichi

2005 平成17年 10.5 → 12.27 火
FUKUOKA ART MUSEUM

写真: 橋本文夫

イカロス・プロジェクト 飛翔の夢—国境を越えて

本展は、福岡の現代美術シーンを彩り、国内はもとより、広く世界に優れた美術作品と情報を発信する美術家を紹介するものです。さてこの第7回展では、福岡生まれで現在福岡県糸島郡二丈町に在住する柳幸典氏(1959～)を紹介します。

彼は、奇想天外なアイデアとたぐい稀な造形センスで数々のアート・プロジェクトを展開してきました。巨大な鯛焼きによる「グラウンド・フィッシュ」、国旗の中に生きた蟻を配した「アント・ファーム・プロジェクト」、スキューバ・ダイビングの経験から生まれた「パシフィック・プロジェクト」など多様多彩です。しかし変幻自在な展開のなかに一貫して流れているのは、ユーモアに満ちた造形力とその造形の中に秘められた批評の質の高さです。

さて今回の「イカロス・プロジェクト」では、人類の永遠の夢である人力飛行(それも羽ばたき)に挑戦します。映像、シミュレーション・マシーン、コンセプト・モデルなどが織りなす「飛翔の夢」をお楽しみ下さい。



1 グラウンド・フィッシュ [1988]
土、モルタル、木、ロープ、チェーン、チェーンブロック/480.0cm(長さ)

2 ザ・フォービドゥン・ボックス [1995]
ナイロン・ヴォイル地にアイリス・プリントとシルクスクリーン、鉛箱/
518.2×294.7(布)、61.0×91.5×61.0cm(鉛箱)/直島コンテンポラリー・アート・ミュージアム所蔵

3 パシフィック・アント・ファーム・プロジェクト 1996 [1996]
蟻、彩色した砂、プラスチックボックス、プラスチックチューブ、プラスチックパイプ
各25.0×36.5cm(計49)/テート・モダン(イギリス)所蔵

4 グラマー・ピラミッド—アント・ファーム・プロジェクト 2000 [2000]
蟻、彩色した砂、プラスチックボックス、プラスチックチューブ、プラスチックパイプ
各40.0×60.0cm(計15)/ヴァージニア美術館(アメリカ)所蔵

5 アキツシマ 50・1—パシフィック・プロジェクト 2000 [2000]
鋼鉄/302.0×141.0×26.0、260.0×115.0×8.0、232.0×117.0×11.0cm/広島市現代美術館所蔵

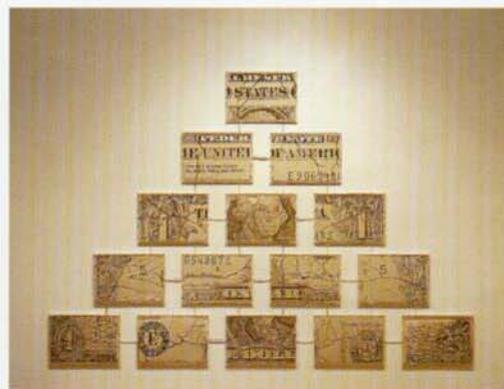
*本展は、新作展のため図版の作品は、出品されておりません。参考図版です。



2



3



4



5

「世間を憂しとやさしと思へども 飛び立ちかねつ 鳥にあらねば」 山上憶良

飛ぶことを考え始めたのは4年前に福岡糸島の地に移り住んだ頃である。海に見える山の北斜面にあるスタジオの窓からはいつも間近に鳶が飛んでいる。北から吹き上げる海風や夕暮れに森から湧き立ってくる上昇気流に乗って羽ばたくことなく悠々とソアリングしている。私にもできる、と思った。羽ばたくことこそ出来ないがソアリングのための翼があれば同じことができるはずだ。さっそくグライダーのことを調べていると、なんと目と鼻の先の海岸でハンググライダーの教習をやっていると知った。そして修業の甲斐あって今では何とかあの悠然とソアリングしていた鳶の真似事をできるまでになった。しかしやはり鳥にはなれないのだ。羽ばたくことが出来ないグライダーは吹き上げる風や湧き上がる上昇気流がなければ降下していくしかないのである。常に降下のリスクを念頭に置かなければ渡り鳥のように旅は出来ないのだ。自由に空を、大海原を旅出来ないものか。しかも化石燃料を使わずに。そんなことを考えている時に人工筋肉技術のことを知った。羽ばたけると思った。近い将来に。問題は動力源であろうが、燃料電池の開発と自然エネルギーからの発電技術もめざましいものがあるから問題点はとりあえず先のぼしにして、渡り鳥のように長距離飛行移動する計画を立ててみたいと思ったのがこのプロジェクトである。

重力からの自由、国家からの自由、そして、人間からの自由。

このプロジェクトではシギ・チドリの旅を追っていくこととした。南半球のオーストラリアから北半球のサハリンまで、多くの国のボーダーを越えていく。飛行計画は気象、気流、地形などを考慮し綿密に検討しなければならない。気流に乗り、グライディングで無駄にエネルギーを浪費せず、どうしても降下するところでは次の上昇気流を見つけるまで光と風をエネルギー源に人工筋肉の力を借りて悠然と羽ばたくのだ。渡り鳥の身になってみることでどんな世界が見えてくるだろうか。美しく、やさしく、きびしい自然。そして伐採の進む熱帯雨林、干拓され小さくなっていく干潟、ヒートアイランドで熱風を浴びせられることになる大都市上空、黒いカラス達がたむろするゴミの谷…。

柳 幸典 2005年9月

▲ 関連事業

▲アーティスト・トーク/入場無料

柳 幸典

「プロジェクト列伝」(仮題)

2005年11月5日(土)13:30～/1階教養講座室

▲クロス・トーク/入場無料

八谷和彦 [Pet WORKs 代表・メディアアーティスト]

藤 浩志 [藤浩志企画制作室 代表・美術家]

柳 幸典

「飛翔の夢」(仮題)

2005年11月19日(土)13:30～/1階教養講座室

▲ 交通のご案内

▲地下鉄「大濠公園」駅下車、
3番出口より徒歩約10分

▲西鉄バス「城内美術館東口」下車、
徒歩約8分/「赤坂3丁目」下車、
徒歩約13分

福岡市美術館

〒810-0051福岡市中央区大濠公園1-6

